

令和6年2月7日

大阪府立柴島高等学校 第3回 学校運営協議会 議事録

1 会議日時 令和5年2月7日(水) 15:00~16:30

2 開催場所 大阪府立柴島高等学校 校長室

3 委員

	氏名	資格	所属	出欠
会長	森田 英嗣	学識経験者	大阪教育大学 教授	○
副会長	山本 了照	地域の関係者	大阪市立淡路中学校 校長	○
委員	武田 緑	地域の関係者	Demo(教育ファシリテーター・武田緑事務所) 代表	○
委員	表西 貴文	地域の関係者	大阪市新大阪人権協会 評議員	○
委員	坂本 浩子	その他の関係者	大阪府立柴島高等学校後援会 会計	○
委員	坂元 直美	保護者	大阪府立柴島高等学校PTA 会長	○

4 事務局(学校側)

小畑 龍業(教頭) 三輪 真嗣(首席) 内田 清彦(首席) 中川 智子(人権教育主担)  
堀 博俊(事務長) 森田 正良(校長)

5 次第

○校長あいさつ

○会長あいさつ

○協議案件

- ・R5年度各校務分掌及び学年の年間総括について
- ・R5年度学校教育自己診断の結果について
- ・R5年度学校評価案について
- ・R6年度学校経営計画案について
- ・その他

6 協議の概要

○R5年度各校務分掌及び学年の年間総括について(事務局)

<総務・教務・生活指導・集団育成・進路指導・保健・自立支援・各学年の順にポイントを説明>

- ・ICT機器の不具合が課題になっている。教員の端末も接続できないことが多いが、生徒の端末も1学年ずつの接続が限界で全校一斉に使用できない。また、特定の教員に負担が偏っている。
- ・今年度の3年生が旧カリキュラムの最後の学年で、来年度から全学年が新カリキュラムとなる。科目選択のガイダンスは授業を通じて丁寧に行うよう努めた。定期考査では欠試届を導入した。

- ・生活指導に関しては、あいさつの励行を重点項目において取組んだ。欠席や遅刻の数が増えているのはコロナが5類に移行したことも影響していると思われる。
- ・今年度より「スタディサプリ」を全学年で活用することにした。キャリアコーディネーターの活用もうまくいっている。
- ・外部人材を活用し、安全教育を行うことができた。歯科の受診率がなかなか伸びず、家庭の協力を促したい。
- ・目安箱の設置など積極的な取組を通じて生徒会執行部が活躍している。体育祭を外部会場で実施して成果をあげたので、来年度も同様の形で行いたい。文化祭は集団育成の取組より個人の楽しみが優先されている状況があるので、そこをどのように改善していくかが課題。
- ・集団づくりの中で自立支援コースの生徒とその他の生徒とのつながりを醸成することができた。
- ・1年生は、4年ぶりにHR合宿を行うことができた。個々の対話はよくできるが、集団になると難しい場面がある。
- ・2年生は、修学旅行を通じて人間関係の深まりが感じられるようになった。
- ・3年生は、例年よりも「託すHR」で自分のことを語る生徒が多く見られた。聴覚支援の必要な生徒との関わりの中で、文化祭の作品で字幕をつけるなどのことが自然にできるようになった。

#### 【質疑応答】

委員) うちの子どもは科目選択で3次選考まで回され不本意な選択になってしまった。自分のやりたい科目が選択できないことで学校生活に支障をきたすことはないのか？

事務局) 科目選択で抽選になることは少なくないが、それで学校生活に支障をきたしている生徒は見られない。新たな選択となったことで興味関心や進路希望が広がった生徒もいる。

委員) ICT機器の不具合の原因は？

校長) 特定できていない。

委員) 集団になると難しいという背景にはコロナ禍の影響もあるだろう。

会長) 4年ぶりのHR合宿はどうだったのか？

委員) 共同で入浴したくないという生徒が増加している。生徒は軽い人間関係を好む傾向にある。

委員) 中学時代はコロナ禍で無理に登校しなくてよいと言われていたが、高校では同じようにできないということが難しさを生んでいると思う。

委員) 大阪府学校教育審議会の中間報告では普通科の改革と学びの多様化への対応が提起されているが、総合学科はどうなのか？

校長) 普通科改革と学びの多様化は別の議論。どの学校でも学びの多様化が求められていると認識している。本校でも弾力的な運営をめざしたい。

委員) 入学者選抜についても課題にあげられていたと思うが、中間報告では言及されていなかった。その辺りの議論はどうなっているのか？

校長) 答申に向けた後半の議論で俎上に載せられると聞いている。

委員) 既存の枠組にはまりにくい生徒に対応するためには、枠組自体をどれだけ変化させていくのが重要。例えば、髪型や服装指導についてももう少し弾力化する、学び方についても自宅から参加した場合は出席とする、宿泊行事では一人で入浴する選択肢も用意するなど。

事務局) 入浴については、個室風呂の多い宿舎は費用が2倍になる。

委員) 仕事で不登校生徒と関わっているが、中学校ではフリースクールでの学びも出席としている。自宅での授業を出席とするなど、学習意欲のある生徒の救済を考えてほしい。

委員) たしかに中学校では登校意欲のある生徒への代替措置が施されている。高校ではどうなのか?

校長) コロナ禍を機に高校においても修学のための条件は緩和されてきている。本校でもこれまで弾力的に運用してきた経緯がある。今後、学教審の答申を受けて、制度化されていくのではないかと考えている。

○R5年度学校教育自己診断の結果について(校長)

- ・12月に実施した学校教育自己診断の結果に基づいて分析したもの。
- ・「本校への満足度」「特色への理解」「ともに学びともに育つ教育」「総合学科の学び」「学校行事や生徒会活動」といった項目は、依然として高い数値を維持している。
- ・「ICTの活用」「多様性を尊重する人権教育と集団づくり」「進路実現に向けた取組」「主体性や規範意識の育成」「学校行事」「広報活動」「教職員の協力」「業務の効率化」などの項目は肯定率が上昇傾向にある。また、これまで低下傾向にあった「家庭学習」「部活動」が増加に転じている。
- ・気になるものとしては、「いじめ対応」について、生徒の肯定率が上昇しているのに対し、保護者のそれが低下していることがあげられる。しっかりと取組んでいくことで保護者の理解や信頼に繋がりたい。

【質疑応答】

会長) この結果を踏まえ、来年度に取組みたいことは何か?

校長) 増加に転じたとはいえ、「家庭学習」や「部活動」の数値はまだまだ高いとは言えず、課題が残ったままだと考える。さらなる取組を進めたい。

○R5年度学校評価案について(校長)

- ・年度当初に示した評価指標に基づき、自己診断を落とし込んで、評価した。ほとんどの項目は学校教育自己診断の結果を指標としているので、重複している部分の説明は割愛する。
- ・ストレスチェックにおける健康リスクの数値が低下していることも成果の一つであり、教職員の協働が進んできたことが要因であると考えます。

【質疑応答】

会長) 教職員の協働がさらに進んできているのは素晴らしい。

委員) 教職員が相談し合える体制がますます重要になっている。教職員の人権意識を高めるためにどのような取組を行っているのか?

事務局) 教職員研修を盛んに行うようにしており、教職員が対話する機会を増やしている。

○R6年度学校経営計画案について(校長)

- ・一昨年度に大きく変えたので、来年度も踏襲し、基本的に3年間は同じ方針でやっていきたいと思っている。ご確認いただきたい。

【質疑応答】 なし

○1年間をふりかえって

委員) PTA会長として学校運営協議会に参加させてもらい、学校のことを知るよい機会となった。

委員) 地域連携について、引き続き積極的に進めてもらいたい。

委員) 今まで大事にしてきたことを継承しながら、生徒の状況に合わせて対応を変化させている。そんな学校の様子を知ることができてよかった。

委員) 生徒の状況が自分たちの頃とは大きく変わってきていることが実感できた。

委員) 小中一貫校になって8年めを迎え、小学校の取組について知っているようで知らなかったこともあるとあらためて感じている。柴島高校についてもよく知っているような気になっていたが、学校運営協議会に参加して、さらに深く知ることができた。

会長) 第2回学校運営協議会で授業参観があり、生徒の実態について得られる情報が多く、とてもよかった。次は、学校行事との連携なども期待したい。